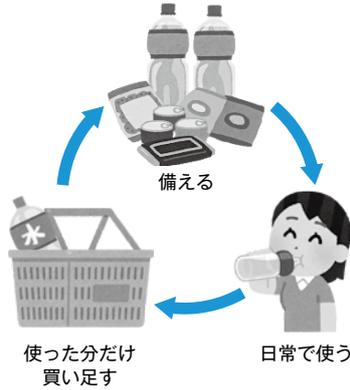


必要な物資の量は、東日本大震災までは三日分と言われてきました。しかし、東日本大震災の被災地では、流通ルートが寸断され、救援物資が届かず、一週間たつても足りない状況でした。この教訓から、一週間分の水と食料は自分で確保すべきと考えられています。

- 水（成人一日あたり三リットル）
- 食料（成人一日あたり二千キロカロリー）
- 燃料（カセットコンロなど）
- 食器類（お皿、コップなど）
- 工具（スコップ、バールなど）
- 照明（ランタン、懐中電灯など）
- 粉ミルク、哺乳瓶（乳幼児のいる家庭）

ローリングストック法

缶詰やレトルト食品など普段利用している食品や、ポリ袋やラップなどの生活用品をはじめに多く購入しておき、消費した分を補充することで、常に一定量を確保できます。日ごろから余分に買い置きしておけば災害時に役立ちます。



地域で備える

持病の薬、介護用品など（高齢者のいる家庭）
乳幼児や高齢者など、家族構成により必要なものは異なります。家族にとって本当に必要なものを考えて準備してください。

災害時に地域住民が助け合うために、各自主防災会での訓練や町主催の総合防災訓練などを実施しています。積極的に参加して、お互いに顔の見える関係づくりを進めてください。

9/2 総合防災訓練

大震災を想定した町総合防災訓練を行います。

▼とき 九月二日（日）午前九時～午前十一時三十分

▼ところ 豊山中学校

▼前半（午前九時～午前十時五分）

防災関係機関（消防、警察、自衛隊など十四団体）による災害時の一連の活動

▼後半（午前十時五分～午前十一時二十五分）

消火器の使用・負傷者の救助・応急処置の実施など町民の皆様が体験し防災を学ぶ訓練、震度七までの揺れを体験できる地震体験車、特殊車両の展示、ドローンの操作体験

※当日は、午前九時に防災行政無線（屋外スピーカー）と、会場・その周辺で緊急自動車によるサイレンが鳴ります。

防災チャレンジキャンプ

六月九日（土）・十日（日）、豊山小学校において防災チャレンジキャンプを実施しました。

平成二十九年度から実施し、二度目となる今回の訓練は、「避難所生活がいかにも不自由であるかを体験すること」を目的に行われました。豊山小学校区から、自主防災組織、地区委員、防災士の会、消防団、地域住民など百人が参加しました。訓練は、ライフラインが途絶した状況を想定し、避難所の開設・運営、防災サバイバル飯の調理、クロスロード（カードを使用した防災シミュレーションゲーム）など、避難所生活で役立つ知識を学びました。

参加した児童の声

豊山小学校六年

倉田晃里さん

私は、六月九日、十日の防災チャレンジキャンプに、日帰りで参加しました。が、その七日後に大阪で大きな地震がありました。そのことを知った私は、「本当に地震は明日くるのかもわからないな。」と思いました。

ちなみにキャンプで行った主な事は、サバ飯（サバイバル飯）調理と暗闇めいろです。しかもこのキャンプは

ライフラインが途絶した状態で行いました。初めての経験だったので、おどろく事ばかり。簡単にまとめると、トイレと夜です。なぜこの2つがおどろいたのかというと、トイレをした後は、バケツの水で流し、夜は電気がつかえないので、「バルーンライト」というものをつかい、辺りを照らしているからです。最後に暗闇めいろをしました。一歩ふみ入れると、別世界で、一面真っ暗!!このめいろはよつんばいになって進むもので、とってもむずかしかったです。

一番最初に書いたように、地震は明日くるかもしれません。改めて、防災の日に話し合おうと思います。

日頃の備えが被害を減らす

大地震や豪雨などの自然災害は、人間の力では食い止めることはできません。しかし、災害による被害は、私たちの日頃の努力によって減らすことが可能です。

災害が起きてからでは間に合いません。平時から、「自分でできること」、「家族でできること」、「近所と力を合わせてできること」などについて考え、話し合うことで、いつ起こるか分からない災害に備えておくことが大切です。

▼問合せ 防災安全課防災安全係
28・0355